

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

28号

平成 26 年 9 月 15 日 第 28 号

1 責任転嫁する市長答弁を聞いて

9月議会が始まりました。9月2日に行われた市長による行政報告において、新庁舎建設の残っていた空調設備の仮契約が再入札後に締結された事が報告されました。議員より、「何故、再入札時の価格提示約7億8千万円が契約締結時に2億円も減り、約5億7千万円になったのか、常識的におかしい、2億円の差は大きく、これで新庁舎の安全が保てるのか、市長は疑問を持たなかったのか」等の質問がありました。市長は、「私は、これらのことにたけていない、困ったと思ったのは事実だが、職員に聞いたところ大丈夫だと答えた」等、責任転嫁するような答弁が聞かれました。この再入札後の価格は、今後、労務単価や資材の高騰を理由に増大することが考えられます。とりあえず今は低価格で契約し、建設を前に進めようとする意図が感じられます。

さらに、別の議員から新庁舎起工式について、「起工式は、建設に関わる全ての業者が参加し工事の安全祈願をするものであるが、空調設備の契約ができていない段階で起工式を行ったのはおかしいのではないか」との質問がありました。市長より、起工式は業者が行うものであり、行政はその決定に関与しないという主旨の答弁が聞かれました。業者が決めたとしても、本来であれば発注者である行政側に主導権があり、主旨に反していればそう言えたはずです。それを業者の責任にしてしまう答弁が聞かれたのです。

駅前複合施設建設の当初予算約22億5千万円が、約32億円に上昇した時（現在では約39億円になっています）も、予算の組み立ては職員が行った等と先と同様の言動が聞かれました。色々な場面で、長としての責任を他の者に転嫁する答弁を聞く度に、二階堂市長の政治家としての姿勢に嫌気が差します。政策以前の問題です。私はこのような人に次期市長になって欲しくありません。

2 第3セクターの決算報告を聞いて

平成25年度決算審査特別委員会の議員11名が選ばれ、9月5日に第3セクターの決算報告がありました。

その中の紫雲の郷館の決算報告では、涙ぐましい企業努力の上に、19名の正規雇用者の賞与をなくし、やっと黒字にしたことが報告されました。それでも、指定管理委託料が約300万円減らされたそうです。職員の給与は年金や保険料を含めて平均約16~17万円ということでした。責任者から、現在の市政は、二つの大きな箱物建設を控え、目は月岡温泉に向いている、しばたん観光バスも採算度外視で行われている等、偏った今のまちづくりへの疑問と、企業努力をしている者が報われないという主旨の嘆きがきかれました。

エフエムしばたは、借入金返済までに約10年かかる一方で、職

員給与が増額されていました。正規職員は5名、パートが3人ということでした。委員会終了後に職員の平均給与を質問しましたが、答えていただけませんでした。赤字のエフエムしばたであっても賞与は支払われていました。議員から、高価な緊急告知ラジオをもっと安価なものにしてほしい等の要望が出されました。答弁を聞いて、今のエフエムしばたは企業努力が足りないように感じました。同じ第3セクターであっても大きな差があるように思います。

3 新発田市財政は本当に大丈夫ですか

先の委員会では、平成25年度の決算について財務課長総括説明があり、新発田市財政は健全財政を示している事が伝えられました。

この度の決算には、しばたん観光バスを運営する観光協会の採算度外視の歳出も、新庁舎の空調予算も含まれていません。新庁舎を平成27年度中に建設しなければ補助金が出ないとして建設計画を拙速に押し進めておきながら、今になって合併特例債補助金が延長できるとし（もともと合併特例債は延長できました）、新庁舎建設期間を延長させる事により、多年度に予算を振り分けました。歳入においては、市税は減少、多くは交付金に依存した予算執行です。私には、数字上における帳尻合わせの決算報告のように思えません。実際の新発田市財政は逼迫していると思います。

上越市議会では、建設予定の複合施設建設費が当初見込みを10億6千万円上回る事が示され、「常識では考えられない増額」「構想そのものを改めるべき」などの意見や疑問の声が上がっていると新潟日報記事にありました。新発田市では、新庁舎と駅前複合施設を合わせた総事業費が当初見込みより約30億円も増大していますが、結果として、議員からは賛成の声しか聞こえてきません。

4 議員定数と議員報酬について

8月20日の議会便りにおいて、議員定数、議員報酬が妥当であるとの市民の意見があったと報告されていました。はたして妥当なのでしょうか。平成25年度決算が、決算審査特別委員会の委員に選出された11名の議員によって審査されました。初日は委員以外の議員の傍聴は4~5人でした。委員が選出されているのですから傍聴の義務はありませんが、各委員会では、その場に出席しなければわからない事もあります。私は、主に各会派を代表する限られた委員を選出するような方法ではなく、各委員会の委員に全議員がなり、行政をチェックすべきと考えます。そうであれば議員報酬は今のままか上乘せしても良いと思います。また、現在のように各委員会の委員が11名程度で成り立つようであれば、今の議員定数27名をもっと減らすことができると思います。今の議員定数を維持しなければ地元の意見が反映されにくいという意見がありますが、地元志向ではなく、もっと新発田市全体としての政策提言を行い、議論して欲しいと思います。各地域の住民の声を聞く為には、議会報告会のような機会を度々もつ事を検討してはいかがでしょうか。

市会議員を選ぶ際、市民は会派で選ぶわけではありません。議員一人としてもっと責任をもって行政をチェックして欲しいものです。今のままでは議員報酬も議員定数も減らしてもよいと思います。